



## ◆診療科紹介 脳血管センター長 脳神経外科教授 池田 尚人

昭和大学江東豊洲病院・脳血管センターは、脳卒中を専門的に治療する診療部門です。脳卒中は、脳血管の異常により脳組織が障害される疾患の総称であり、日本人の死亡原因の第3位です。脳卒中には、脳梗塞、脳出血そしてくも膜下出血の3つの病型があります。治療方法は、病型と発症した時刻により変わります。従って診断するための設備とスタッフは重要であり、当院は最先端の診療機器と充実したスタッフで質の高い診療が提供できるよう常に準備しております。脳卒中は、場所・時間を選ばず突然に発症します。従って24時間- 365日のいつでも対応が可能なように、また脳卒中に特化して効率的かつ有機的に診療できるよう脳神経系の内科（6名）、外科（3名）のスタッフが診療科の垣根をとり除きそれぞれの専門を生かして対応しております。



脳血管センター医師（中央 池田先生）



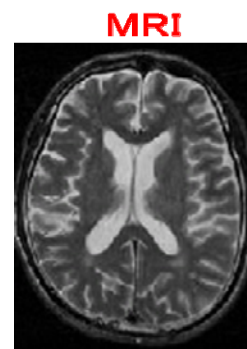
昭和大学江東豊洲病院

### 第5号のトピックス

- ・ 診療科紹介  
- 脳血管センター
- ・ 部門紹介  
- 栄養科-

## — 脳血管センターの外来診療 大中洋平（脳神経内科） —

外来は、脳神経内科と脳神経外科の医師がそれぞれの担当日に診察を行っておりますが、患者さまの情報を共有することで幅広い脳神経疾患に対応できるように努めております。また、近隣の医療施設と連携することで地域中核病院としての役割を全う出来るよう日々の診察にあっております。



## — 脳神経内科が対象とする疾患は？ 藤田和久（脳神経内科） —

脳神経内科は、脳神経系の救急疾患の内科診療と脳血管内治療を担当しており、特に脳梗塞の診療に力を入れております。またリハビリテーション科等と連携して円滑な治療に務めております。一方、脳卒中以外の救急診療も行っております。脳神経の症状（頭痛、言葉の障害、運動麻痺、しびれ、けいれん）でお困りの場合は、ご連絡ください。



## — 脳神経外科が対象とする疾患は？ 鷺見賢司（脳神経外科） —

脳卒中に対する外科的手術と脳卒中の原因となる疾患（未破裂脳動脈瘤や頭蓋内外の動脈狭窄・閉塞等）に対する手術治療を担当しております。脳卒中を発症した場合は、残された脳機能を最大限に温存し効果的にリハビリテーションが行えるように、また脳卒中を予防する手術では合併症を防ぎつつできるだけ早く日常生活にお戻り頂けるように患者さんにやさしい手術を提供させていただきます。



## 最新の脳卒中診療とはどのようなものですか？

2000年代になり脳卒中専門医と脳卒中専門病棟の概念と確立、また脳梗塞の原因である血栓（脳血管が詰まる原因となる血液の塊）を溶解する組織プラスミノゲンアクティベータ（t-PA）の開発や血管内治療の進歩により治療法は飛躍的に進歩しました。

### — 救急センターにおける脳梗塞の診療 栗城綾子（脳神経内科） —

脳梗塞超急性期に対しては、t-PAを用いた経静脈的血栓溶解療法および血管内治療を病態に考慮して行っております。この治療は、発症してからの時間が重要であり、可能な限り早く治療を開始することで良い結果が期待できます。当センターでは、早く、安全な治療を提供するために体勢を整えております。



### — 血管内治療とは？ 神谷雄己（脳神経内科 診療科長） —

血管内治療は、カテーテルを用いた患者さんには負担が少ない治療方法です。脳梗塞の原因となる狭い血管や詰まった血管を治療する血管形成術と血管病変を詰めることで治療する塞栓術があります。



かもしだ きょうこ

## 部門紹介 栄養科 鴨志田 恭子

昭和大学江東豊洲病院の栄養科は地下1階にあります。入口を入ると左手に調乳洗瓶室、調乳室と続き、反対側にはガラス越しに事務所、さらにその奥に厨房があります。



栄養科の業務は大きく2つに分けられます。1つは給食管理で、電子カルテの情報を部門給食システムに取り込み、食札を出して食事の準備をします。食事はニュークックチルシステムで、昭和大学附属病院で初めて導入されたシステムです。これは食事を3～4食分まとめて作り、90分以内に3℃まで冷却し保管します。食事提供の約1時間前に再加熱カートで100℃40分加熱し、70℃20分クールダウン後患者さんの元へお届けするシステムです。

食中毒菌が繁殖する温度帯を短時間で通過させるため、食中毒の予防にもなり、安心安全なお食事が提供できます。

2つめは栄養管理です。入院された全ての患者さんに対して栄養評価を行い、褥瘡や口腔ケア、NSTなど栄養がかかわるラウンドにも参加し、より適切な栄養治療が提供できるよう必要であれば栄養剤や栄養量の変更を医師に依頼します。栄養指導も行っており、入院・外来問わず、土日も実施しています。

周産期センターの祝い膳や術前補水流動等診療科から依頼があって誕生した食種もあります。ニュークックチルシステムであるがゆえに、対応できかねることもあります。患者さんの栄養面で困りのことがあれば是非お声かけください。

みつやま しんいち

## 編集後記 循環器外科 光山 晋一

この記事を書いている現在、日本は夏真っ盛りで連日暑い日が続いておりますが、皆様いかがお過ごしでしょうか？私個人は朝暑くなる前に出勤し夜遅くに帰宅する(もしくはそのまま病院に滞在する)という医師冥利に尽きる状況でありますので、特に夏バテになることもなく過ごさせています。皆様がこの病院便りをお手にされる頃はまだ残暑が厳しい事かと存じます。どうぞくれぐれも体調に気を付けてお過ごし下さい。



昭和大学江東豊洲病院 <http://www.showa-u.ac.jp/SHKT/>

〒135-8577 東京都江東区豊洲5-1-38

TEL03-6204-6000 (代表)

発行責任者：新井一成 編集責任者：長谷川真



Showa University Koto Toyosu Hospital